

編集後記

筋肉疾患はリハビリテーション医学で扱われる一つの大きな範疇である。進行性筋ジストロフィーやシャルコー・マリー・トゥース病などと我々もよく臨床上議論する。末梢神経損傷とも異なり筋肉の疾患は病像がある程度共通でしかるも予後は概して悪いという先入観があるためか、筋疾患の研究は結構進んでいるようで実はそうではない。筋肉の基礎医学的、分子生物学的研究が驚異的に進んでいるのとはまさに対照的である。従って臨床家はあまり筋肉の基礎的な問題に関心も向けないという結果になってしまうが、これでは治療上にも画期的なものが期待出来ない。

よく基礎的知識をまとめ、骨格筋なら骨格筋の本態をよく追究してはじめて遺伝子の組み合わせの狂いによるとか、酵素の欠損とかの筋疾患に対する手段を探す可能性が出て来るのである。そのような意味でいくつかの筋に対する basic science 上の成果の要約をお願いしたのが本号の特集である。筋肥大と萎縮については北沢俊雄氏がわざわざ Pennsylvania の筋研究所から稿を下されたのを始め、筋の再生については埜中征哉氏・杉田秀夫氏がまとめられた。一見再生などは疑わしいよ

うな印象を受ける筋肉の再生の事実が、多くの写真と共に要領よく説明されている。筋肉の生検および光顕・電顕所見は三杉信子氏によって述べられているが clinical research まで行かなくても診断上我々が最少必要とする手技がまとめられており明日からでも実用性がある。日常検査室で行い得るという点が大いに参考になろう。筋疾患と血清酵素は谷淳吉氏により要約されているが、ここで編集子も強調したいことは、CPK などの仕事は本邦の研究者の手になるのだということである。世界で10人の筋化学や筋生理学の専門家をあげるとすればその半数は日本人であろうという状態なのである。筋疾患の電気診断は歴史的にもかなりの年月を経て確立したものとなっているが、廣瀬和彦氏によって解説された。

これら基礎的な問題を臨床家にとって理解し易いよう、しかも up-to-date の知識まで織り込んで下さった諸兄に感謝するものである。その他研究と報告に関しても見るべきものがあつたし、いろいろな考案も随所に現われて、充実した号となっていると自画自賛した次第である。

(大井 淑雄)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
沢 村 誠 志
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
武 智 秀 夫
田 中 照 子
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)

次号予告(第9巻第7号)

特 集	リハビリテーション医療の経済学	
	リハビリテーションの経済学：医学的リハビリテーションの費用・便益分析を中心に…代々木病院	二 木 立
	リハビリテーション医療の経済学的側面…中伊豆リハセンター	三 島 博 信
	職業リハビリテーションの経済的効果…身障者雇用促進協会	松 井 亮 輔
	障害児教育と経済性…山形大・教育学部	武 田 洋
	環境整備による経済的効果…日大・理工学部	野 村 欽
巻 頭 言	ある経験…弁護士	村 田 稔
論 説	リハビリテーション実施の効果について…宮城県・拓杏園	今 田 拓
研究と報告	脳卒中リハビリテーション過程における認知自我機能の変化について(第1報：要求水準テストによる解析)…京都府立医大	佐 藤 能 史
講 座	リハ医のためのリウマチ・膠原病入門	
	7：膠原病入門…岡大・第三内科	宮 脇 昌 二
	動作訓練法について	
	4：動作訓練紹介論文…北九州総合療育センター	高 松 鶴 吉
	脊 椎	
	1：脊椎の発生と解剖…自治医大	大 井 淑 雄
一 頁 講 座	リハにおけるコンピュータの応用	
	7：マイクログコンピュータ応用例(1.足圧分布の変化)…労災義肢センター	土 屋 和 夫
印 象 記	第18回日本リハビリテーション医学会総会…東大保健学科	佐々木 智 也